

山形で労働災害撲滅への 決意を新たに！

—第61回全国林材業労働災害防止大会開催—

令和7年11月21日（金） 山形テルサ テルサホール



第61回 全国林材業労働災害防止大会



第61回

全国林材業労働災害防止大会

林業・木材製造業労働災害防止協会は、令和7年11月21日（金）、山形市の山形テルサテルサホールにおいて、「第61回全国林材業労働災害防止大会」を開催。全国各地から林材業関係者が参加し、さらなる労働安全意識の高揚を図り、労働災害の撲滅への決意を互いに固く誓い合う日となった。

当日は小雨模様にもかかわらず早くから来場者が参集し12時前には受付が開始された。入場手続きを済ませた来場者はロビー奥の展示会場へと足を運び、企業展示のほか、東北農林専門職大学附属農林大学校生による伐採

技能向上のための取組に関するパネル展示を熱心に見学するなど、開会までの時間を有意義に過ごした。会場内では正面の大型ビジョ



東北農林専門職大学附属農林大学校生によるパネル展示



漫才を披露した「山形県住みます芸人・ソラシド」



出羽三山神社 山伏によるほら貝の吹鳴



小関勝助山形県支部長による開会のことば

ンに流れる山形県の魅力を紹介するプロモーションビデオが流され、地元観光への機運を高めた。

大会式典に先立ち、13時から活動等紹介として「生産性と安全対策」と題し、温海町森林組合事業課長の剣持喜哉氏による講演が行われた。温海町森林組合は山形県鶴岡市の日本海側に位置し、急峻地が多い地域ではあるが車両系による提案型集約化施業を経営の軸として森林整備を進めている。近年では、若い人材も集まり技能職員の平均年齢は34歳と若返った。その分、人材育成には力を入れ、安全対策を含め多くの時間を費やし各班を一つにまとめた結果、生産性は継続するにつれて向上していったが、現場の仕上がりに課題が出てきた。そのため、仕上がりのひと手間を惜しまず将来を考えた森林づくりを徹底している。また、インカムやバスティングくさびなどの安全対策商品の導入や技能講習会などを企画し、労働災害の撲滅に力を入れている。



活動等紹介を行った剣持喜哉氏



大会式辞を述べる中崎和久会長

る。さらに温海町森林組合では、今年度からフォレストフィールセミナーを年6回ほど無料で開催し、広く一般の市民の方々に林業のPR活動を始めている。

続いて13時25分からは特別講演「労働災害防止と林業技能の向上について」と題して、全国森林組合連合会常務理事の飛山龍一氏より講演をいただいた。

岡山県出身で山形大学林学科を卒業後、林野庁の各課長や東北森林管理局長などの要職を歴任された同氏は、林野庁退職後も、全国森林組合連合会において引き続き日本の森林林業の活性化を担いつつ、現在は緑の雇用事業や林業就業支援事業などの推進に尽力されている。本講演では緑の雇用事業で若者を現場に送り出す立場として「事故を減らす責任がある」との思いから、2019年に全国団体へ呼びかけて立ち上げられた組織である林業技能向上センターの活動が紹介された。同センターは、国家検定である林業技能検定の実施



特別講演を行った飛山龍一氏



厚生労働大臣の祝辞を読み上げる土井智史安全課長



林野庁長官の祝辞を読み上げる清水浩太郎林政部長



山形県知事の祝辞を読み上げる小泉篤農林水産部次長



佐藤孝弘山形市長による祝辞

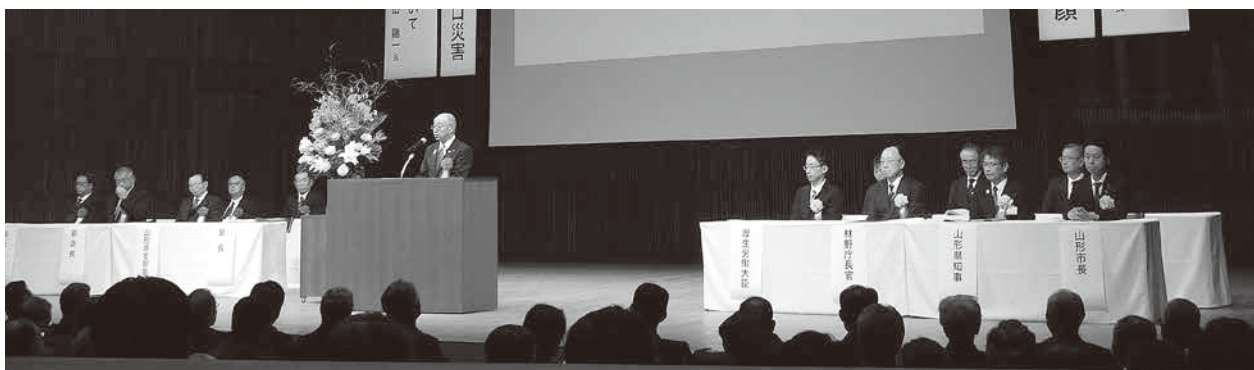
を通じて、技能水準の向上と安全技術の普及を図っている。講演の中で飛山氏は、「適切な受け口・追い口およびツルの作成といった伐倒技能の向上に加えて、重心の見極めやツルの機能など木の倒伏メカニズムを理解することは、裂け上がりや元口跳ねなどの重大災害を防止するうえで有効な手段となる」と強調。検定会場では、受験者の真剣な表情に手応えを感じている一方で、全国への展開や教材・計測器具のさらなる改良が今後の課題だとし、「技能と安全をセットで広げ、林業従事者の地位向上と処遇改善につなげていきたい」との意欲を語られた。その後、「山形県住みます芸人・ソラシド」による「労働災害防止に向けて」と題した漫才が披露された。

午後2時30分より式典が開幕。冒頭、「安全祈願」として出羽三山神社 山伏による「ほら貝」の吹鳴が行われた後、午後2時35分より、林業・木材製造業の労働災害により亡くなられた方に対して黙とうが捧げられた。

小関勝助山形県支部長から「今回の大会が、



みちのく山形県で開催されるにあたり、準備から当日の大会運営にご支援ご協力をいただきました大勢の皆様深く御礼申し上げます。また、この大会が林業関係者の労働安全衛生の意識と高揚を図るとともに、地元災害撲滅に向けた気づきを発信することにより、災害ゼロを目指す有意義な大会にしたいと強く念願しております」という開会のことばが述べられた。来賓祝辞では、厚生労働大臣（土井智史安全課長代読）、林野庁長官（清水





事業場賞進歩賞代表の
東北ウッドカッター株式会社



個人賞（功労賞）代表の
佐藤里美氏

浩太郎林政部長代読）、山形県知事（小泉篤農林水産部次長代読）、佐藤孝弘山形市長により、それぞれ祝辞が述べられた。

また、来賓として、山形労働局島田博和局長、東北森林管理局箕輪富男局長、中央労働災害防止協会吉永和生専務理事が出席した。続いて、林材業の労働災害の防止に多大な貢献・功績を上げられた事業場、個人への表彰として、労働災害防止及び安全衛生管理活動に積極的に取り組み、安全成績及び衛生水準が著しく良好で、他の模範となる事業場に贈られる事業場賞進歩賞5事業場のほか、個人賞功労賞11名、個人賞功績賞5名が表彰され、各賞の代表者がそれぞれ登壇し、中崎和久会長から表彰状並びに記念品が授与された。

受賞者を代表し、事業場賞進歩賞を受賞した東北ウッドカッター株式会社の代表取締役である伊藤信一氏より「これまでの労働災害防止への取組に対し、会長から表彰の栄誉を賜りましたことは、私どもにとりまして身に余る光栄であり、極まりない喜びでございます。私どもがこのような栄誉を賜ることができましたのも、林材業労災防止協会のご指導はもとより、林材業界関係各位、またそれぞれの事業場、職場のご理解とご支援のたまものであり、心からお礼申し上げます」と謝辞が述べられた。

その後、長年にわたり労働災害防止活動に努力し、協会業務の運営と活動の推進に尽力された4名の方々に感謝状が贈られた。



受賞者代表として謝辞を述べる
東北ウッドカッター株式会社の伊藤信一氏



感謝状の授与

大会宣言では、株式会社阿部製材所の阿部知行代表取締役が登壇。安全行動を最重点とする誓いを宣言し、会場の盛大な拍手をもって採択された。

続いて「最近の労働安全衛生の動向について」と題して山形労働局労働基準部長の松岡隆夫氏より講演をいただいた。

そしてプログラムの最後に、次回開催県挨拶として、来年度の全国大会開催地である熊本県支部の鉄本行廣支部長より「第62回の全国大会を2026年10月15日、熊本市熊本城

大会宣言

わが国の林材業における労働災害は、会員事業場と林材業関係者のたゆまぬ努力により、減少傾向にあるものの、いまだ、年間約2千2百名の労働者が被災し、その中で30を超える尊い^{いのち}生命を失っている。

労働災害を「ゼロ」にするには、経営トップと働く一人ひとりが強い意志をもって、安全衛生活動に積極的に取り組むことが最も重要である。

わが国の貴重な財産である森林から得る恩恵に皆が感謝し、健康で安全な作業を続けることを確認し合う機会とするため、第61回全国林材業労働災害防止大会を開催した。

本日、私たちは、「林業・木材製造業労働災害防止計画」の取り組むべき事項を再確認し、全ての活動においてその実現に向け積極的に取り組むとともに、改めて、林材業で働く人々の安全と健康が最優先との原点に立ち、本年の労働災害ゼロの合言葉『過信せず 確かな手順でゼロ災害』を掲げ、以下に述べる安全行動を最重点とする誓いを、今、ここ山形で表明する。

- 1 「林業・木材製造業労働災害防止規程」に定められた安全衛生教育の実施並びに安全な作業手順と正しい作業方法を守る
- 2 林材業リスクアセスメントの普及・定着にすべての事業場で取り組む
- 3 林材業労働災害防止計画の究極的な目標である労働災害ゼロをすべての事業場で目指す以上のとおり、宣言する。

令和7年11月21日

第61回全国林材業労働災害防止大会



大会宣言を行う株式会社阿部製材所の阿部知行代表取締役

ホールにて開催できますことを、感謝しております。支部の会員一同がみなさまのお越しをお待ち申し上げておりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます」と次期開催への決意を表明した。

菅野康則副会長の閉会の言葉をもって、第61回全国林材業労働災害防止大会は盛会のうちを終了した。



山形県の労働安全衛生動向について講演する山形労働局松岡隆夫労働基準部長



次回大会への参加を呼びかける熊本県支部楯本行廣支部長



閉会宣言を行う菅野康則副会長

大会式辞

林業・木材製造業労働災害防止協会
会長 中崎 和久



本日、ここに、第61回全国林材業労働災害防止大会を開催するにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

はじめに、労働災害等でお亡くなりになられた方に心から哀悼の意を表するとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

本大会は、昭和39年の協会創立以来、会員各位と関係者の皆様の労働災害防止にかける思いを繋いで開催してまいりました。今年も、61回目を迎える本大会が、大変多くの全国の林材業関係者の皆様のご参加のもと、このように盛大に開催されました。

ご支援、ご協力を賜りました山形県、山形市、関係者の皆様、さらに、小関支部長をはじめ、山形県支部の皆様のご尽力に改めて感謝申し上げます。

また、本日はご多忙の中、厚生労働省安全課長 土井様、林野庁林政部長 清水様、山形県農林水産部次長 小泉様、山形市長 佐藤様をはじめ、関係団体、業界団体のご来賓の皆様にご参列いただきました。心から感謝申し上げます。

本大会では、林材業の労働災害の防止に多大なるご貢献、ご功績を上げられました事業場、個人の皆様への表彰を行うこととしております。受賞されます皆様方には、長年にわたるご努力、ご精進に対し、深く敬意と感謝を表しますとともに、今後の益々のご活躍を祈念申し上げます。

さて、当協会は、設立以来、皆様のご協力とご支援のもと、労働災害の撲滅を目指し、さまざまな労働災害防止対策事業に取り組んでまいりました。

関係各位のたゆまぬご努力の成果により、林材業における労働災害の発生件数は長期的に減少を続けています。しかしながら、残念なことに未だに悲惨な死亡災害は後を絶ちません。

昨年、林業では、死亡災害の約7割を伐木造材作業が占め、このうち約9割がチェーンソーによる伐木作業において発生しています。

また、木材製造業では、死亡災害4件のうち3件が木材等製造作業で発生しています。

労働災害発生率でも、発生頻度の割合である死傷千人率、災害の重さの割合である強度率でも、林業、木材製造業ともに他の産業に比べて著しく高い状況が続いています。

このような労働災害発生状況の現状も踏まえ、当協会では、令和5年に林材業労働災害防止計画（5カ年計画）を策定いたしました。

今年はその中間年度となり、5カ年計画の目標に向けた労働災害防止対策の推進に取り組み、特に労働災害防止対策事業では、その実効性を高めるため、林業の伐木等作業における死亡労働災害の撲滅、木材製造作業における安全な作業方法の徹底や再発防止の取組などの重点対策を軸とした具体的な対策を、協会をあげて強力に進めているところです。

緑豊かな森林を守り育てる林業と、森林から生産された木材を活用する木材製造業は、わが国の国土を支える重要な役割を担っています。

林業、木材製造業の職場が安全で快適となることをめざし、労働災害を防ぐためには、日々の労働災害防止の活動が大変重要です。

本日ご参集の事業主の方々におかれましては、事業場における組織的、継続的な安全衛生管理体制を整備していただき、また、安全な作業方法と正しい作業手順が行われているかどうか自ら率先して安全パトロールで確認していただくなど、強いリーダーシップをもって労働災害防止に取り組む姿勢をお示しいただくことが重要だと考えています。さらに、リスクアセスメントの実施により不安全行動や不安全状態を未然に検討するなど、働く方々と一丸となって安全衛生活動を着実に実行していただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

結びに、本日ご参集の皆様とともに、希望ある林材業の未来に向け、この山形におきまして労働災害撲滅への決意を誓い合い、皆様にとって有意義な大会となることを心から祈念しまして、大会の式辞といたします。